ゴールを決め原(左)とハイタッチを交わす巻　(撮影・川崎篤彦)

セットプレーから奪った2ゴール！！

駒澤大学２－１法政大学

KOMAZAWA×HOSEI

勝利の鍵は・・・

昨年勝ち点差1で優勝を逃し、リベンジに燃える法大との前期リーグ最終戦。**本田**を中心としたパスサッカーでゲームを組み立てる法大に対し、駒大は得点パターンの一つとなっているセットプレーが勝利の鍵となった。

開始1分、**塚本**のCKに**東平**の頭での折り返しを「決めるだけだったのでおいしいゴールだった」と言う**巻**が頭で決め先制。今シーズン開始1分で得点した試合は3試合と、駒大の試合開始直後の集中力の高さが感じられる。続く9分。またも得点はセットプレーから。**塚本**の右ハーフからのFKを**巻**が頭で合わせ、こぼれ球を前線に上がっていた**菊地**が押し込んで追加点を奪った。両得点に絡んだ**塚本**は「ボールは微妙だったが、中が良かったので決めてくれて良かった」と言うが、これも日々の練習の成果だろう。

立て続けに追加点を奪い波に乗りたい駒大だがなかなかリズムに乗り切れない。そして22分、身体を張ったDFでゴールを守っていた**伊藤**が痛恨のオウンゴール。2－1で前半を終えた。「前半、早い時間にセットプレーで2点取れたのは良かったが、その後の守り方攻め方に問題があった」(**唐井**)。

後半に入ると、セットプレーでしかチャンスを創れない時間帯が続く。更に、前線に枚数を増やし縦に速い攻撃を仕掛ける法大に中盤を征されてしまう。しかし、何とか守り切り勝利で前期最終戦を終えることが出来た。

「(前期で)納得出来る試合は1試合もない」と**唐井**は言う。だが、苦しい試合で粘り強く勝利してきているのも王者だからこそである。

前期を勝利で終えたことで大臣杯予選に向けて勢いが付いた。「昨年はベスト8で終わっているので、リベンジするためにも優勝したい」(**塚本**)という言葉にもあるように、駒大イレブンの見つめる先には優勝しか見えていない。まずは、関東代表の座を手に入れる為、10日に行われる関東代表決定戦に挑む。

(**塩田英美**)